

## 教信上人の供養塔

飯沼さんが、野口念仏の起源について過日説明されました。その「ねんぶつあん」が間もなくやってきますので、幼児体験を少し書くことから始めます。

当時は、仏事と神事の違いがわからず、大勢の人出でにぎわうのが「まつり」だと思っていました。我が家は塔頭不動院の檀家でしたが、そのころの私には知る由もないことでした。わずかばかりの小遣いを握って、子どもにとっては冒険気分わくわくで教信寺まで夜道を歩いていきました。境内はもとより周辺にまで露天商のテントが並び、押し合いへし合いの賑わいで気分が高揚したものです。そのころ買ったのは、歯が折れそうになるほど硬い「岩おこし」や「生姜板」でした。広場というには狭すぎる境内の一角で踊りがありましたが、念仏踊りと炭鉾節の違いもまたその当時はわかりませんでした。

閑話休題。お寺の山門を入り左手、鐘楼の奥に大きな五輪塔があります。教信上人の廟所と伝えられていますが、この五輪塔は花崗岩製で高さは2mを超えており、優美な姿を保つとともに兵庫県指定文化財であり歴史的にも価値が高いものです。田岡香逸氏の研究によると、南北朝時代の築造であろうとされています。ちょうどこの時代に湛阿が野口念仏を創始しており、五輪塔も湛阿が発願して賛同者を募り建立にあたったのではないかと私は推測しています。

湛阿は師の一遍上人と同様に教信上人を篤く尊崇していたので、念仏信仰の布教と同時に教信上人の菩提供養を行ったのでしょう。

後年、羽柴秀吉による播磨攻めで、天正6(1578)年4月に野口城が落城してしまいました。そのとき不動坊をはじめ教信寺ゆかりの人々も秀吉軍に抵抗しましたので、教信寺は焼失の憂き目に陥ってしまいました。その兵火をくぐり抜け、また約700年の風雨にも耐えて教信上人の供養塔は凜とした趣きをいまに伝えているのです。



すつきや加古川 岩坂純一郎